

青少年くらしき

家庭版

発行 倉敷市教育委員会
編集 生涯学習課
426-3845

11月



「未来のつくり手応援団として」

今回は、倉敷教育センター館長 有森眞理 先生に、小学校勤務の中で実践・経験されたことを中心にお話しをしていただきました。現在、多くの市内の先生方を指導され、学校教育活動の質の向上や児童生徒の学力向上などのために尽力されています。お話の要旨を2回に分けてお届けします。

「子どもは、真つすぐな心で受け止める。だから、身近な大人の言動から影響を受けやすい」

私のいくつかの失敗例をお話しします。

初任で二年生を担当した時のことです。二年生にも冗談は通じると思っていたので、子どもたちの前で、「おうちの人が、今日の始業式で、担任の先生が決まって、どんな先生じゃった？と聞くでしょう。そうしたら、この学校で一番若くて美人の先生じゃった、と言つといて。」と言いました。それを聞いて、その子どもは素直に母親にそのこ

とを伝えたようです。

その後、家庭訪問に行った時、その子の母親から「息



子が、学校で一番若くて美人の先生が来られるというので、今日は父親も仕事を休んで待っていました。」と告げられました。それを聞いて、全身から汗がどつと噴き出しました。そしてご両親とお話をしましたが、その時は何をどう話したかよく覚えていません。この経験は今でも心の中に残っています。軽はずみな話はしてはいけません。軽はずみうことを学んだ出来事でした。

また、六年生で担任して送り出した子が、三年経って別の学校に転勤していた私を探して、わざわざ訪ねて来たことがありました。その学年の一年間は、よく子どもたちに「困った時は一緒に考えていこう。」と話していました。この子は、誰が見てもツツパリのやんちゃな子でした。腰にはジャラジャラとしたチェーンをぶら下げて、二人の友達と一緒に小学校に現れたのです。見知らぬ中学生三人が、そういう出で立ちで現れたので、誰もが警戒します。職員室から教室に電話がかかってきて、『先生の教え子なんじゃけど、先生おるかなあ。』と言って中学生が訪ねてきているけど、先生どうされますか。」と言われました。「ちょっと待たせておいてもらえますか。」と伝え、慌てて会いにいきました。私が開口一番「先生お金持っていないよ。」と言うと、「先生違うわ。そんなんじゃないわ。俺が先生に会いてえと言ったら、二人がついてきてくれたんじゃない。進路相談の先生からお前の行く学校はないぞと言われたんじゃない。どうすりゃええん？」

先生、六年生の時、困ったら一緒に考えようと言うとったんが頭に浮かんで、それで今日来たんじゃない。」と言うのです。私の言葉（「先生お金持っていないよ。」）は大失敗でした。「先生がこの学校にいること、ようわかったなあ。」と聞くと、「小学校へ行って、先生のこと聞いたんじゃない。ほんならここにいとると言うのだから来たんじゃない。」と言うのです。学校名だけを頼りに遠くから自転車をこいで、道に迷いながらわざわざ私に会いに来てくれたこと、私の言ったことを忘れず頼りにしてくれたことなどを思うと、胸が熱くなりました。具体的なアドバイスはできず「とにかく、あきらめず前向きに頑張るしかない。」と励ますのが精いっぱいでした。その後、音信はなかったのですが、成人式の日、小学校でタイムカプセルを開ける時に再会して話をすると、「あの時、先生に会って励ましてもらって頑張れた。」





「りっぱなハマチ」 水彩

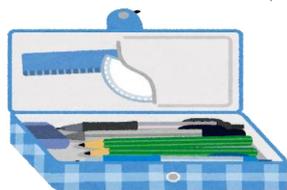
倉敷市立緑丘小学校 3年 大島 れあ (令和元年度)

私はつりがすきで、つれた魚をかきました。つれた時の魚の色にするのがむずかしかったです。魚の色や形、魚の顔を工夫しました。

と言ってくれました。今はちゃんと仕事をし、給料の一部を家に入れていけると聞いてうれしい限りでした。子どもを信じることを、自分の言葉にしっかりと責任をもたなければならぬことを、その時強く思いました。教え子には、企業へ就職したり、舞台の場で活躍したり、シンガーソングライターをしたりしている子など、いろいろなところで活躍している子がいるのですが、いろいろ問題を抱えていた子も、今現在、社会の中で自立して生活していることが素晴らしいことで、私の教員生活の中でも、強く印象に残っているうれしい出来事でした。

「愛されている子は、愛され方を知っている。愛し方も知っている。」

ある学校で担任した一年生の子どものお話です。この子（A男）は母子家庭の子でした。A男のお母さんは朝から夜まで本当に一生懸命働かれています。そのため、お母さんは、なかなか子どもの面倒も上手くみられないところもありました。朝食をきちんとしてらせることもなかなか難しいようでした。家事や子育ては苦手だったかもしれませぬ。それでも、生活習慣を整えるようお願いすると、努力をしてくださいました。A男はかなりやんちゃな子だったのですが、誰かが泣いていると、必ずそばまで行って声を掛けるし、トラブルが発生すると、話を聞きにその中に入っていくような優しい一面がありました。他方、学用品もなかなかそろわないような状態でした。他の子が新しい筆箱や消しゴムなどを持ってくるのですが、A男は一切その新しいもの話



には入ってこないのです。うらやましいとも欲しいとも言いませんでした。A男は、クラスみんなのことが好きでした。そして、クラスの子どもたちもみんなA男のことが好きで、彼を包み込むような雰囲気がありました。お母さんと話をすると、「私はなんにもしてやれんのよ。ただ一つだけ、毎晩寝るときにギョツと抱きしめて、『あなたのことが大好きじゃからな。』とやるのよ。」と話されました。人に愛され心のよりどころがある子は、人に優しくでき、人を愛することができるのだと実感しました。

A男は幾度となく学校でトラブルを起こしました。ある時、A男が友達にけがをさせてしまったことがありました。その時、お母さんに学校に来てもらうと、とにかく相手方に謝りに行きたいということでした。早々に私も同行して相手方の家に行きました。そこで、このお母さんは相手の子どもとご両親にボロボロ涙を流して謝りました。そして、学校に帰っ

てからも、先生方に申し訳ないと言って、ボロボロ涙を流して謝るのです。普段、少々のことは大目にみておられるお母さんだったのですが、『人を傷つけたことは絶対許せない。』とのこと、それを起こしたわが子にシヨックを受けたようでした。お母さんがここまで謝り、泣く様子を目の当たりにしたA男は、大泣きになり、涙が止まりませんでした。大きな声で叱られるよりも、大好きなお母さんにつらい思いをさせたことがこたえたようでした。この件以降は、A男の暴力的な面はぐんと影を潜めることとなりました。

無条件に受け入れられているということを認知できている子とその親との間には、言葉では言い表せないほどの「信頼関係」があるものだと感じました。

(つづく)

